

マダニによる感染症に注意!

春から秋は、マダニによる感染症が増加します。マダニに咬まれないように注意しましょう。

昨年、県内ではマダニが媒介するウイルス性感染症「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」の発症が14例確認されています。

そのうちの9例が幡多福祉保健所管内(黒潮町、四万十市、宿毛市、土佐清水市、大月町、三原村)で、全国的にも特に発症の多い地域になっています。

◆マダニとは

マダニは、食品などに発生するコナダニや、衣類や寝具に発生するヒョウダニなど、家庭内で生息するダニとは種類が異なります。

マダニ類は固い外皮に覆われた比較的大型(吸血前3〜8mm、吸血後10〜20mm)のダニです。主に森林や草地などの野外に生息しており、市街地周辺でも見られます。日本でも全国的に分布しています。



フタトゲチマダニ



タカサゴキララマダニ

◆「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」とは

SFTSウイルスを保有するマダニ類に咬まれることによって感染し、発症するウイルス性感染症です。

【潜伏期間】

(病原体に感染してから身体に症状がでるまでの期間)

- マダニに咬まれてから6日〜2週間程度。

【感染経路】

- ウイルスを保有しているマダニに咬まれることで感染します(ただし、ダニに咬まれた痕が確認

- できない場合も多い)。
- 感染者の血液・体液との接触感染
- インフルエンザのように容易に人から人へ感染が広がるものではありません。

【症状】

主に発熱や消化器症状(食欲低下、吐き気、嘔吐、下痢、腹痛)が出現し、時に頭痛、筋肉痛、神経症状(意識障害、けいれん、昏睡)、リンパ節腫脹、呼吸器症状(咳など)、出血症状(紫斑・下血など)を起こします。致死率は6・3〜30%と報告されています。

◆予防について

有効な抗ウイルス薬はなく、予防のためのワクチンもありません。野外でダニに咬まれないことが重要です。

- マダニの活動が盛んな春から秋にかけては注意をする。
- 草むらや藪などマダニが多く生息する場所に入る時は、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴、帽子、手袋を着用し、肌の露出を避ける。
- ダニが衣服の中に入らないよう、首にタオルを巻いたり、シャツ

- の袖口は軍手や手袋の中へ、ズボンの裾は長靴の中へ入れる。
- 屋外活動後はマダニに刺されていないか確認をする。
- 感染者の血液、体液、排泄物との直接接触は避ける。

◆もしマダニに咬まれたら

マダニ類の多くは、人や動物に取り付くと、皮膚にしっかりと口器を突きだし長時間(数日から、長いもので10日間)吸血します。無理に引き抜こうとするとマダニの一部が皮膚内に残ってしまうことがあるので、吸血中のマダニに気が付いた際は、病院で処置をしてもらってください。

また、マダニに咬まれた後に発熱や消化器症状が認められた場合は、すぐに病院を受診してください。

○お問い合わせ

本庁健康福祉課 保健衛生係
 ☎ 43-2836(直通)
 佐賀支所地域住民課保健センター
 ☎ 55-7373(直通)